

## 12. 洋学と幕末の思想

- 洋学…1542・43年の西洋との接触以来、宣教師**ザビエル**に代表されるように、様々な人物が来日し、多種多様な文化が伝えられたが、江戸期に鎖国が行われたために、西洋とは切り離されて学問体系が形成されることとなった。ヨーロッパで唯一付き合いのあったオランダから輸入された学問は、**蘭学**と呼ばれ、のちの**洋学**に影響を与えた。洋学は、江戸時代末期に定着し、**実証性・合理性**に富んだ学問体系であるために、既存の幕藩体制への批判や開国論の理論的基礎ともなった。
- ・**和魂洋才**…日本人の心情・精神を根底に、西洋の学問や科学技術を受容し活用する態度。
  - 青木昆陽**[1698-1769]享保の飢饉に苦しむ民衆を救うため、**サツマイモ**の栽培を説き、8代将軍吉宗に認められる。オランダ人通訳を通じてオランダ語を学び、蘭学発展の要因を作った
  - ・『**解体新書**』…西洋医学に関する日本最古の翻訳書。**前野良沢**[1723-1803]・**杉田玄白**[1733-1817]らが、原書の『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、蘭学の発展に寄与
  - 杉田玄白**[1733-1817](『解体新書』の項を参照)[著書]『**蘭学事始**』蘭学創始期の回想録
  - 三浦梅園**[1723-89]江戸中期の思想家。豊後出身で、23歳の時にヨーロッパ近代科学の知識を摂取するために長崎に遊学する。その後郷里に戻り、儒学と蘭学を調和した、自然哲学的な、条理学を提唱
  - 大槻玄沢**[1757-1827]江戸後期の蘭学者・医師。先述の杉田・前野に学ぶ。蘭学塾の**芝蘭堂**を開き、蘭学入門書の『**蘭学階梯**』を著す
  - 緒方洪庵**[1810-63]江戸後期の蘭学者・医師。蘭学塾の**適塾(適々斎塾)**を大阪に開き、福沢諭吉・大村益次郎などの、次世代を担う人材の育成に尽力
  - シーボルト**[1796-1866]幕末に来日したドイツ人医師。出島のオランダ商館員として来日。長崎に鳴滝塾を開き、蘭学の発展に影響を与えるも、禁制の日本地図を国外に持ち出そうとして見つかり、国外追放処分を受ける(シーボルト事件)。59年に再来日
  - 高野長英**[1804-50]江戸末期の洋学者。長崎でシーボルトに学び、江戸で開業医となる。のちに渡辺崋山らと**尚齒会(蛭社; 西洋研究グループ)**を結成。幕府の対外政策(モリソン号事件)を批判する『**戊戌夢物語**』を書き、鎖国政策を批判したため、**蛭社の獄**(洋学者弾圧事件)で投獄され、自殺
  - 渡辺崋山**[1793-1841]江戸末期の洋学者。田原藩の家老で、政治家として実績を上げる。高野長英と同じく、幕府の政策を批判した『**慎機論**』を著し、蛭社の獄に連座し、自刃
- 幕末の思想…
- ・**水戸学**…江戸時代、水戸藩での『大日本史』編纂事業を中心に興隆した学派。藤田東湖の周辺を中心に、大義名分論・国体論・尊王攘夷論などを特色とする思想が形作られる。
  - ・**大義名分論**…「大義」…大きな正義・「名分」…君臣の名と上下の区分。天皇が「君」・将軍以下が「臣」
  - ・**尊王攘夷論**…尊王論(天皇崇拜思想)+攘夷論(外国人排斥思想)。幕末の政治運動に影響を与える
  - 佐久間象山**[1811-64]江戸末期の思想家・洋学者。西洋の科学技術を積極的に取り入れる必要性を説いた。幕末の危機に際して、開国論や公武合体論を力説するも、京都で尊攘派に暗殺される
  - ・**東洋道徳, 西洋芸術**…≡和魂洋才。ここでの芸術は、技術のこと
  - 吉田松陰**[1830-59]幕末の志士・尊王攘夷家。長州出身。若くして脱藩し、見識を深め、佐久間象山の弟子となる。ペリー来航に乗り密出国を企てるも、失敗。郷里にて獄につながる。その間**松下村塾**にて講義を行い、高杉晋作・久坂玄瑞・伊藤博文・山縣有朋などの新時代の開拓者を輩出。その後、安政の大獄で刑死。
  - ・**一君万民論**…藩ごとに分裂した幕藩体制の枠を超えて、天下万民の主君である天皇に民衆が結集し、「誠」をもって「忠」を尽くすという主張。維新に向かう青年に大きな影響を与える
  - 横井小楠**[1809-69]幕末の政治・思想家。儒教的な見地から、公武合体を目指す

### センター問題に挑戦! No.12 (2008年追試) [標準]

佐久間象山の「東洋道徳, 西洋芸術」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 東洋の道徳は西洋の芸術に対抗できるものであるから、西洋の芸術を受け入れてもかまわない。
- ② 東洋では道徳が優れており、西洋では技術が優れているので、両者を兼ね合わせる必要がある。
- ③ 東洋の道徳では西洋の芸術を理解できないので、西洋の思想も受け入れなければならない。
- ④ 東洋の道徳と西洋の技術とは対抗関係にあるので、東洋の道徳を守る必要がある。

[No.11の答⑬② ⑭① 説明は略]